

建設新聞

2017

2月8日

水曜日

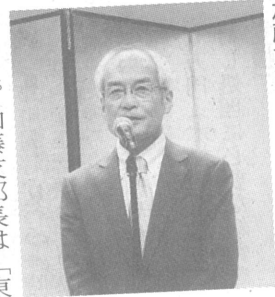
JSCA東北

震災の知識と経験を生かして

新年賀詞交歓会

日本建築構造技術者協会
東北支部(加藤重信支部長)
は3日、新年賀詞交歓会を
仙台市のパレスへいあんで

加藤支部長



開いた。加藤支部長は「東北支部は昨年、創立30周年を迎えた。ここまで活動を続けることができたのも、皆さんの支援のたまもの」と謝意を表明した。

また加藤支部長は「東日本大震災で得られた知識と経験を生かしていくことが、われわれにとつての社会貢献。こうした観点から、仙台市とは一時避難所の安全性をチェックする協定を結んだ。今後、最も重要となるのは大規模地震から復旧するための協力だ」と述べ、ことしも積極的な活動を展開していく考えを示した。

賀詞交歓会に先立ち、日本建築学会東北支部構造部会と共同で記念講演会を開催。東京工業大学の笠井和彦教授が「鉄骨、RC、木質などの架構特性を踏まえた制振設計法および指針の展開」をテーマに、最新の研究成果を披露した。

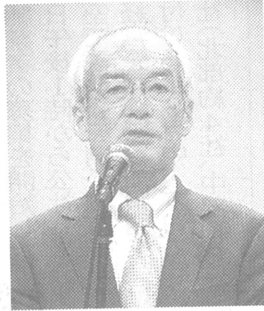
2017年(平成29年)2月8日(水曜日)

賀詞交歓

飛躍へ決意新た

JSCA東北

日本建築構造技術者協会東北支部(JSCA東北、加藤重信支部長)は、仙台市青葉区のパレスへいあんで2017年新年賀詞交歓



会を開いた。会員や賛助会員、友好団体の代表者ら約160人が新年を祝うとともに、同支部のさらなる発展と飛躍への決意を新たに

冒頭、あいさつに立った加藤支部長は、「東日本大震災からできるだけ早く復旧・復興が成し遂げられるよう、構造設計者として協力できる組織づくりをしていく」と語った。続けて「6月にことしで4回目となる構造デザイン交流会を開く。これまで以上に発展した内容となる。ぜひ、参加してほしい」と呼び掛けた。写真。この後、来賓の祝辞に続き、代表者による乾杯の首頭で祝宴に移った。賀詞交歓に先立ち、笠井和彦東京工業大教授による「木造および鋼構造の制振」をテーマとする記念講演も行われた。